2025年２月26日

名護市長・渡具知武豊　殿

ヘリ基地反対協議会

共同代表・浦島悦子／仲村善幸

**１月１７日の陸上自衛隊「防災訓練」についての質問と要請**

　陸上自衛隊第15旅団は1月17日、名護市内各所で防災訓練と称する訓練を行った。名護市はその直前の16日夕刻、名護市ＨＰの「お知らせ」欄に「陸上自衛隊による防災訓練の実施について(通知)」を掲載したが、訓練場所とされた関係各区の区長はじめ区民には何の連絡もなく、名護市防災行政無線による市民への周知もなかったため、ほとんどの市民は全く知らないまま、軍用機の離発着や、戦闘服で行軍する自衛隊の姿に直面させられることになった。

　現在、米軍・自衛隊を含め沖縄全体の急激な軍事要塞化が進み、80年前の沖縄戦の悪夢が再び繰り返されるのではないかという不安と懸念が高まっている。そんな中で、阪神大震災から30年という節目の日に「防災訓練」と銘打ちながら、その内容は「初動部隊展開訓練、航空機離発着訓練、山地機動訓練及び情報収集訓練、徒歩行進訓練」（自衛隊発表による）と、軍事訓練そのものであったこと、住民・市民は全く「カヤの外」に置かれたことに、多大なる疑問と懸念を抱かざるをえない。

　以下、名護市に対する質問及び要請に真摯に答えることを要請する。

1. 陸上自衛隊から訓練の「お知らせ」があったのは1月14日である。名護市HPでのお知らせが16日夕刻になった理由と経緯。
2. 名護市防災行政無線があるにもかかわらず、使われなかったのはなぜか。また訓練関係区・区長に連絡しなかったのはなぜか。
3. 陸上自衛隊の「お知らせ」では、「名護市災害対策本部機能移転・運営訓練」に合わせて訓練を実施、とあるが、名護市の訓練とはどのような内容か。また自衛隊訓練との関連や連携はあるか。
4. 陸上自衛隊の14日付「お知らせ」にはないが、名護市の16日付「お知らせ」には訓練場所として汀間地区が加えられているのはなぜか。汀間区民及び隣区の瀬嵩区民も当日、訓練の気配は全く感じなかったと聞いているが、この訓練は実施されたのか。されたとすればどんな訓練だったか。されなかったとすれば、それはなぜか。
5. 今後も「防災訓練」と称する軍事訓練を繰り返すことによって、軍事的なものに市民を慣れさせ、戦争への道を踏み固めようとする動きが加速することに、私たちは大きな不安と懸念を抱いている。これを払拭するために、今回の自衛隊訓練に関する名護市の説明及び今後に向けた見解を示すよう要請する。